

川崎汽船 石炭運搬船「庄内丸」 船内見学会等を実施  
～丸亀市内の小学校2校を招待～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、会員会社等と連携して教育関係者に対し商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、川崎汽船および今治造船との共催、丸亀市教育委員会の後援にて、今治造船 丸亀工場および同工場で建造中の川崎汽船 石炭運搬船の見学会を開催しました。丸亀市内の小学生を対象とした見学会は2016年度から実施しており、3回目となる今回は丸亀市内の小学校2校（午前：城乾小学校、午後：岡田小学校）の5年生ら約90名を招待しました。

本船・造船所見学に先立ち、城乾小学校では本見学会主催者提供資料をもとに事前学習を行い児童が纏めた海運・造船に関する質問に主催者から返答し基礎知識を醸成致しました。さらに川崎汽船 清水船長が同校にて海運の重要性、船員の仕事や船内生活、本船の特徴に触れた事前授業を石炭の実物を見せながら行いました。岡田小学校では造船所までのバス車内において、川崎汽船 大塚一等航海士から同様の説明を行いました。



造船所到着後、まず、船の建造工程や工場概要の説明を小学生は聞き、地元にある造船所の世界トップクラスの技術で建造された船が世界と我が国の架け橋となり我が国の暮らしを支えていることを学びました。その後、造船所内をバスにて見学しながら本船が接岸している岸壁に向かい、清水船長・大塚一等航海士の先導で全長約250mの巨大な石炭運搬船に乗り込みました。船内では、ブリッジ（操舵室）や船長室、食堂などを見学し、レーダーなどの航海機器の操作を食い入る様に見入っておりました。また、本船では数日後に出航を控えた本船フィリピン人乗組員の出迎えにタガログ語で児童から挨拶をしたり、本船アルバロ船長やロペス機関長からの歓迎挨拶も行われ交流を楽しみました。

参加した小学生からは、「一番遠くの国まで何日かかるのか」「中国まで燃料はどれくらい必要なの」「船の名前の由来は」など船に関することから「女性船員はいるのか」「家族と会いたくならないのか」などの船員生活に関することまで質問が途切れることなくありました。また、「普段は入れない場所に入れてうれしかった」「将来は船に乗って働きたい」などの感想が寄せられ、海運・造船やそこで働く人々に対する理解と関心が深まる機会となりました。

当協会では、今後とも各自治体や地元企業等からのご協力も仰ぎながら皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動をしてまいります。

